

平成29年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果について

1 埼玉県学力・学習状況調査について

(1) 調査の概要

実施日	平成29年4月13日(木)
調査対象	県内の公立小・中学校(さいたま市を除く)に在籍する 小学校第4学年から中学校第3学年の全児童生徒 ・ 小学校 708校 149,230人 ・ 中学校 356校 143,687人
調査概要	(1) 児童生徒に対する調査 ア 教科に関する調査 小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数 中学校第1学年 国語、数学 中学校第2学年及び第3学年 国語、数学、英語 ・ 出題数は、各学年26~40題(問題形式は選択肢・短答・記述) イ 質問紙調査 学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項(質問数は、各学年83~102項目) (2) 学校及び市町村教育委員会に対する調査 学校における教育活動並びに学校及び市町村における教育条件の整備等に関する事項
特徴	「学習した内容がしっかりと身に付いているのか」という視点に「一人一人の学力がどれだけ伸びているのか」という視点を加えることで、学力の伸びが把握できる。 PISA調査と同じ調査手法を使うとともに、継続的なデータで学力の経年変化を追うことができる。

平成29年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果について

1 埼玉県学力・学習状況調査について (2) 「学力のレベル」と「学力の伸び」について

本調査では、学力を「学力のレベル」として提示している。
小学校4年生から中学校3年生までのすべての問題に難易度を設定することで、学力のレベルを測定している。



本調査における「学力のレベル」の考え方

- 「どのくらい難しい問題を解く力があるか。」を学力のレベルで表している。レベルが上がるほど、難易度の高い問題を解く力がある。

本調査における「学力の伸び」の考え方

- 年度間の「学力のレベルの差」を学力の伸びと捉える。

児童生徒に返却される個人結果票には、学力のレベルの見方や、それぞれの学力のレベルで正解できる問題の例が示されています。

教科に関する調査結果(2~3ページ)の見方

この調査では、各学年における学力のレベルがわかります。レベルが上がるほど難しい問題を解く力があります。過去の結果と比べることで、「学力の伸び」を確認できます。

1つのレベルは、それぞれ3層に分かれています。

白い部分が、学力の調査範囲です。

今年度の調査で測定したあなたの学力のレベル

小学校6年生から中学校1年生までのあなたの学力の変化

平成28年度の調査で測定したあなたの学力のレベル

平成27年度の調査で測定したあなたの学力のレベル

それぞれの学力のレベルで正解できる問題の例

	国語	数学
レベル10	「筆者の意見をまとめた文にあてはまる言葉を、文中から書きぬく」「文中にあてはまる慣用語を選ぶ」	「全体の平均と一部の平均から残りの平均を求める」「小数の逆数を求める」
レベル9	「文中の一部が指す内容の説明として適切なものを選ぶ」「賛成か反対かについて自分の意見を二段落構成で書く」	「分数の計算を用いて文章題を解く」「グラフで表された資料を読み取り、正しく説明をする」
レベル8	「同じ構成の熟語を選ぶ」「出典書の指す内容を説明する比較的読者の意見を文中から書きぬく」	「メートル法の単位の仕組みを用いて、大小2つの立方体の体積の関係がわかる」「絶対数や百分数になる図形を選ぶ」
レベル7	「読解文で事実として書かれている出典を示す言葉を文中から書きぬく」「話し合いでの発言について共通点を選ぶ」「文中にあてはまる適切なことわざを選ぶ」「登場人物に	「文章を読んで図形から実際の面積を求める」「底数分布表から割合を求める」

平成29年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果について

<参考> 問題の難易度の設定について

(例1) 分数の計算問題

高



難
易
度

低

問題の難易度	問題例
6	$0.7 \div \frac{2}{3}$
4	$5.6 \div 1.4$
3	$56 \div 4$

割り算に分数も入るため、
難易度は更に上がります。

割り算に小数が入るため、
難易度が上がります。

整数同士の割り算の問題です。

平成29年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果について

<参考> 問題の難易度の設定について

(例2) 面積や体積を求める問題

高



難
易
度

低

問題の難易度	問題例
6 (小6で出題)	<p>次の図は、三角形の面積を求めるために、直線の長さを測って書き入れたものです。この三角形の面積を求めましょう。</p>
4 (小6で出題)	<p>次の図のような、たて、横、高さがそれぞれ2 cm、4 cm、5 cmの直方体の体積を求めましょう。</p>

与えられた数値から面積を求める問題です。必要な数値を取捨選択するため、難易度が上がります。

与えられた数値から体積を求める問題です。

平成29年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果について

2 分析結果について

(1) 「学力のレベルの経年変化」について

どの学年でも、学年とともに、着実な「学力の伸び」が見られる。(①)

どの年度の児童生徒も、一定程度の水準の学力レベルに達している。(②)

国語科

	小4	小5	小6	中1	中2	中3
現中3				22 → 22 → 24		
現中2			20 → 21 → 23			
現中1		19 → 20 → 22				
現小6	15 → 18 → 20					
現小5	16 → 18					
現小4	16					

算数・数学科

	小4	小5	小6	中1	中2	中3
現中3				20 → 21 → 24		
現中2			18 → 20 → 22			
現中1		17 → 19 → 20				
現小6	14 → 17 → 18					
現小5	14 → 16					
現小4	14					

英語科

	中2	中3
現中3	24 → 28	
現中2	24	
現中1		
現小6		
現小5		
現小4		

学力のレベルは、36段階で設定しています。

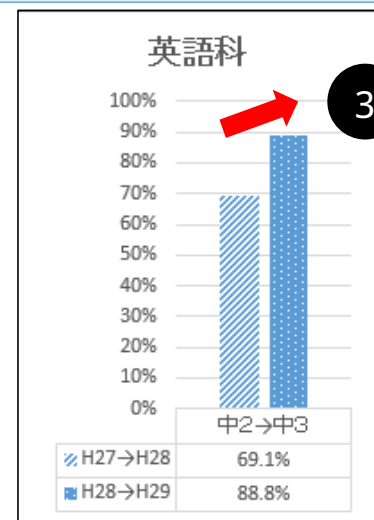
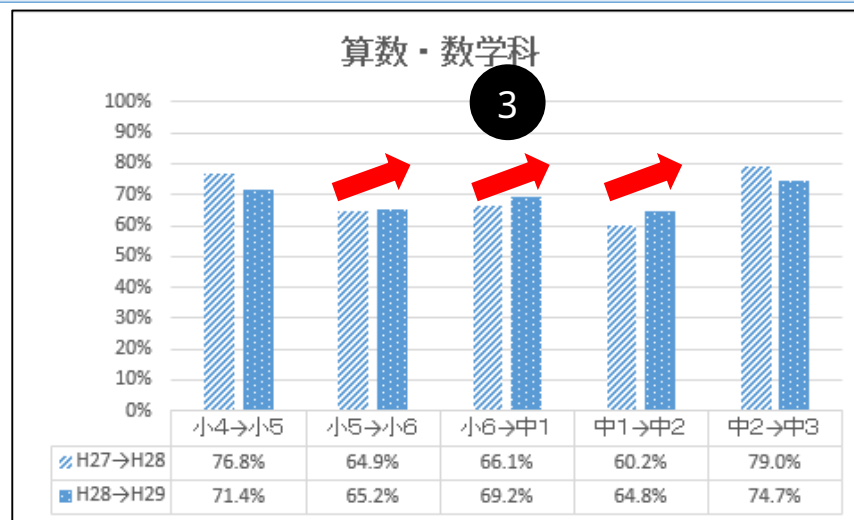
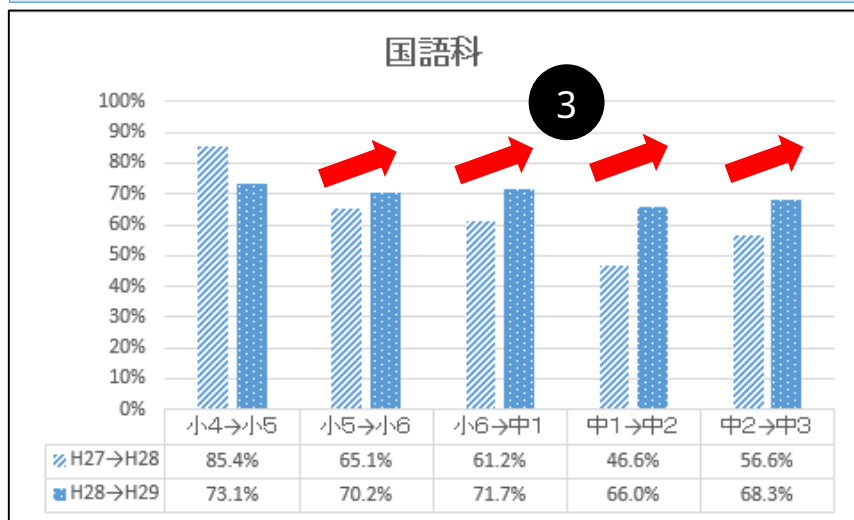
平成29年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果について

2 分析結果について

(2) 「学力が伸びた児童生徒の割合」について

昨年度と比較すると、「伸びた児童生徒の割合」は、各学年で概ね増加している。(3)

昨年度、「伸びた生徒の割合」が著しく低かった中学校第1学年から中学校第2学年にも改善が見られるが、他の学年に比べると引き続き低い傾向がある。



平成29年度 全国学力・学習状況調査及び埼玉県学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査及び埼玉県学力・学習状況調査結果を受けた今後の対応

<基本方針>

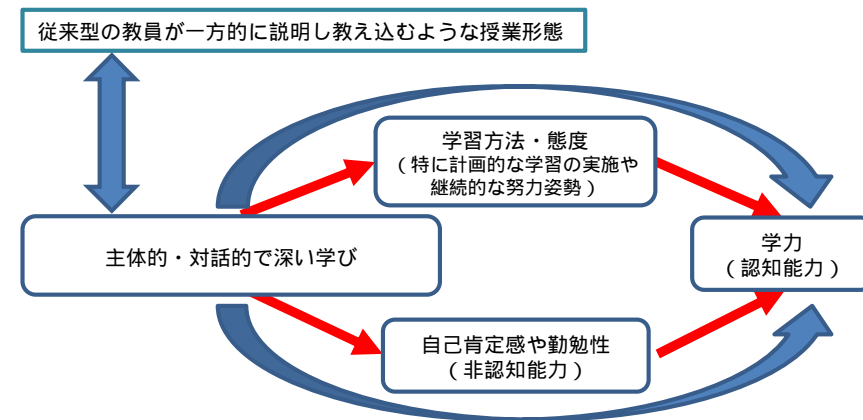
県学力・学習状況調査を十分に活用して、子供たち一人一人の学力をしっかりと伸ばすことで、全国学力・学習状況調査の結果の改善につなげる。

(1) 各学校で学力を大きく伸ばした学年や学級を把握し、効果的な取組や工夫の共有化を図る取組を促進する。

(2) 平成28年度県学力・学習状況調査データ活用事業の分析結果を踏まえて、主体的・対話的で深い学びの実践を進める。

(参考) 平成28年度県学力・学習状況調査データ活用事業の分析結果概要

主体的・対話的で深い学びが、子供たちの学習方法・態度の改善や、自己肯定感などの向上を通じて学力を向上させている



(3) 全国学力・学習状況調査の結果や、県学力・学習状況調査の学力の伸びの状況を踏まえて、支援が必要となる学校を、市町村と連携して重点的に支援する。

